

山口県旧県会議事堂復原竣工記念

# 子ども県議会会議録



山口県議会事務局

## 山口県旧県会議事堂復原竣工記念「子ども県議会」

○ 開催日時 平成17年(2005年)3月28日(月) 13時から

○ 開催場所 山口県旧県会議事堂

○ 主 催 山口県議会、山口県、山口県教育委員会

○ 日 程

ハープ・フルート二重奏

川口三値子・山田英人

- ・人生のメリーゴーランド
- ・千と千尋の神隠し メドレー
- ・さくらさくら変奏曲

1 開会あいさつ

島田明県議会議長

2 子ども県議会

(1) 開会

子ども県議会議長

(2) 会期決定の件

〃

(3) 知事あいさつ

綿屋滋二副知事

(4) 一般質問(質問・答弁)

子ども県議会議員、答弁者

(5) 決議(宣言)案(説明・討論)

子ども県議会議員

(6) 閉会

子ども県議会議長

3 閉会あいさつ

長谷川忠男県議会副議長

子ども県議会 議員名簿

学 校 名	氏 名	よ み が な	備 考
由宇町立 由宇中学校	坪 田 和 平	つばた かずひら	質問者
	河 地 祥 子	かわち しょうこ	
岩国市立 麻里布中学校	吉 岡 翼	よしおか つばさ	
	瀧 真 理 子	たき まりこ	質問者
	中 村 美 穂	なかむら みほ	
柳井市立 日積中学校	加 藤 菜 摘 子	かとう なつみこ	質問者
	松 中 千 明	まつなか ちあき	
平生町立 平生中学校	西 隼 太 郎	にし しゅんたろう	質問者
	隅 田 裕 章	すみだ ひろあき	
	田 中 実 夏	たなか みなつ	
光市立 光井中学校	石 川 善 規	いしかわ よしのり	質問者
	中 村 友 紀	なかむら ゆき	
周南市立 鹿野中学校	田 中 大 恵	たなか ひろえ	質問者
	佐々木美由紀	ささき みゆき	
	松 村 将 門	まつむら まさかど	
小郡町立 小郡中学校	成 松 園 巴	なりまつ そのえ	議長
	北 川 優 司	きたがわ ゆうじ	
山口市立 大殿中学校	中 嶋 美 絵	なかしま みえ	決議案説明者
	片 岡 建 人	かたおか たけと	討論者
	吉 岡 遼 子	よしおか りょうこ	
美祢市立 大嶺中学校	長 正 輝	なが まさき	
	栗 栖 由 稀	くりす ゆうき	質問者
宇部市立 黒石中学校	浅 田 悠	あさだ ゆう	質問者
	幡 生 悌 希	はたぶ だいき	
	佐々木美紗緒	ささき みさお	
下関市立 豊北第一中学校	小 山 由 朗	こやま よしろう	質問者
	清 水 素 子	しみず もとこ	
下関市立 彦島中学校	吉 岡 拓 矢	よしおか たくや	
	嶋 村 諒 夏	しまむら りょうか	質問者
	谷 悠	た に ゆ う	
阿武町立 阿武中学校	三 好 弘 朗	みよし ひろあき	
	白 石 沙 也 香	しらいし さやか	質問者
萩市立 越ヶ浜中学校	杉 本 雅 彦	すぎもと まさひこ	質問者
	田 尾 和 也	た お か ず や	
	秋 尾 沙 耶	あきお さや	
私立高水高等学校 付属中学校	大 矢 格	おおや いたる	質問者
	黒 田 咲 穂	くろだ さほ	

参与員（答弁者）名簿

役 職	氏 名	よ み が な	備 考
山口県 副 知 事	綿 屋 滋 二	わたや しげじ	
総合政策局長	三 好 猛	みよし たけし	
総務部長	西 村 亘	にしむら わたる	
地域振興部長	伊 嶋 正 之	いしま まさゆき	
環境生活部長	松 原 清	まつばら きよし	
健康福祉部長	石 津 敏 樹	いしづ としき	
商工労働部長	伊 藤 俊 昭	いとう としあき	
土木建築部長	藤 本 聡	ふじもと あきら	
教 育 長	藤 井 俊 彦	ふじい としひこ	
警 察 本 部 長	篠 宮 隆	しのみや たかし	

子ども県議会 質問通告一覧表

発言 順位	学 校 名	氏 名	質 問 要 旨	答 弁 者
1	由宇町立 由宇中学校	坪 田 和 平	ふるさとの活性化について	副知事
2	岩国市立 麻里布中学校	瀧 真 理 子	災害への対応について (1) 県の対応 (2) 教育委員会の対応	総務部長 教育長
3	平生町立 平生中学校	西 隼 太 郎	若者の就職問題について (1) ニート増加への具体的対応 (2) 職場体験(チャレンジウィーク)の実施	教育長
4	柳井市立 日積中学校	加 藤 菜 摘 子	1 若者が定住できるふるさとづくりについて 2 教育のあり方について	総合政策局長 教育長
5	光市立 光井中学校	石 川 善 規	スポーツ振興について	教育長
6	周南市立 鹿野中学校	田 中 大 恵	山口県の良さの情報発信について	総合政策局長
7	宇部市立 黒石中学校	浅 田 悠	将来の就職問題について (1) 若者の就職支援対策の効果 (2) 学校教育における取組	商工労働部長 教育長
8	美祢市立 大嶺中学校	栗 栖 由 稀	自然災害（特に地震対策）への対策について (1) 新潟中越地震の援助活動 (2) 自然災害についての講習会等 (3) 自然災害への対応	総務部長 土木建築部長
9	下関市立 豊北第一中学校	小 山 由 朗	環境問題について (1) 観光地化された地域の環境保全対策 (2) 経済発展と環境問題	環境生活部長
10	阿武町立 阿武中学校	白 石 沙 也 香	若者の定住促進について	健康福祉部長
11	下関市立 彦島中学校	嶋 村 諒 夏	環境問題について	環境生活部長
12	萩市立 越ヶ浜中学校	杉 本 雅 彦	子どもの安全対策について (1) 教育委員会の対応 (2) 警察本部の対応	教育長 警察本部長
13	私立 高水高等学校 附属中学校	大 矢 格	教育問題について (1) 学力向上対策 (2) 学区制廃止 (3) 読解力と入試	教育長

子ども県議会 決議案

件 名	説 明 者		討 論 者	
	学 校 名	氏 名	学 校 名	氏 名
みんなでつくろう 「住み良さ日本一の元気県」についての決議	山口市立 大殿中学校	中嶋 美絵	山口市立 大殿中学校	片岡 建人

# 議 席 表

## 演 壇

総合政策 局長	商工労働 部長	環境生活 部長	総務部長	警 察 本部長
------------	------------	------------	------	------------

知 事	教育長	地域振興 部長	健康福祉 部長	土木建築 部長
-----	-----	------------	------------	------------

光井中 中 村	光井中 石 川	平生中 田 中	平生中 隅 田	平生中 西	日積中 松 中	日積中 加 藤	麻里布中 中 村	麻里布中 瀧	麻里布中 吉 岡	由宇中 河 地	由宇中 坪 田
------------	------------	------------	------------	----------	------------	------------	-------------	-----------	-------------	------------	------------

鹿野中 田 中	鹿野中 佐々木
------------	------------

鹿野中 松 村	小郡中 成 松
------------	------------

小郡中 北 川	大殿中 中 嶋
------------	------------

大殿中 片 岡	大殿中 吉 岡
------------	------------

大嶺中 長	大嶺中 栗 柄
----------	------------

黒石中 浅 田	黒石中 幡 生
------------	------------

高水付属 黒 田
-------------

高水付属 大 矢	越ヶ浜中 秋 尾	越ヶ浜中 田 尾
-------------	-------------	-------------

越ヶ浜中 杉 本	阿武中 白 石	阿武中 三 好
-------------	------------	------------

彦島中 谷	彦島中 嶋 村	彦島中 吉 岡
----------	------------	------------

豊北第一 清 水	豊北第一 小 山	黒石中 佐々木
-------------	-------------	------------



## 開 会 行 事

司会 それでは、山口県旧県会議事堂復原竣工記念子ども県議会の開会に先立ちまして、本日お集まりいただきました子ども県議会議員並びに関係者の皆様に、島田県議会議長がごあいさつを申し上げます。

〔島田明県議会議長 登壇〕（拍手）

島田明県議会議長 議長の島田でございます。

きょうは、この旧議事堂が復原されました記念すべき日なんです。その記念すべき日に、山口県の中学生の皆さん、37名、ここにお集まりをいただきまして、そして子ども議会を開かせていただきました。ようこそいらっしゃいました。心から歓迎を申し上げます。

そして、きょうは皆さんのいろいろな御質問に対して、知事さんが所用で出席できませんので、副知事、綿屋さんが、知事のかわりにお見えになっていただいております。大変忙しいさなかですが、皆さんの御意見をお聞きしたい、そしてお答えしたい。こういうことで、おいでになっていただいております。そして、皆さんの御質問にいろいろ答えていただくように、教育長さんもいらっしゃいますし、各部長さんもそこにお座りになっていらっしゃいます。

だから、きょうは皆さんリラックスしてもらって、いろいろ常日頃考えていることを、どうか忌憚きたんのないような質問をしてください。

そして、この議事堂は、もう90年もたっている。皆さんのおじいさんの、またそのおじいさんが、そのときから山口県でこのような議会が開かれてあって、地方のこと、山口県のことをどのようにしたらよろしかろうなあ、ということを実際に考えておられた、大事な大事な議事堂なんです。そのときの、皆さんはそのままの所にお座りになってもらっている。

皆さんにとっては初めての経験だと思いますが、皆さんたちは、今からこの皆さんの住んでいる地方、そして山口県、さらには日本を背負っていく皆さんですので、すばらしい質問をしていただくと同時に、その将来を見越した質問にしていただくと、たいへん幸せるなど、このように思っております。

私も幸いに、皆さんたちの御意見がどのようなことになるかなあと、どのような御質問をなさるかなあということ、そこで聞かさせていただきますいいチャンスだと思っています。そしてきょうは、多くの県会議員の皆さんも後ろにみえております。がんばってください。

最後になりましたが、各学校の先生方、そして御父兄の方々、こうして御支援を賜り、また御協力をいただきましたことを心から感謝を申し上げます。

本当にきょうはありがとうございました。（拍手）

## 子 ども 県 議 会

司会 それでは、ただいまから、県内中学生の代表による子ども県議会を始めさせていただきます。

会議の開始は、振鈴で報ずる、と会議規則で定められておりますが、昭和30年頃まで使用しておりました、手で振り鳴らすベルを鳴らさせていただきます。

その間に、参与員の方は、席の移動をお願いいたします。

(振鈴)

司会 それでは、本日の子ども県議会の議長を務めていただきます「小郡中学校の成松園巴」さん、どうぞ、議長席にお願いします。(拍手)

議長(成松園巴さん)ただいま紹介されました、小郡中学校の成松園巴です。

本日の議長の役目を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。(拍手)

---

午後1時30分開会・開議

議長(成松園巴さん)これから、県内中学生の代表による「子ども県議会」を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

---

日程第一、会期の決定

議長(成松園巴さん)日程第一、会議の期間を決定することを議題とします。

お諮りします。子ども県議会の会議の期間は、きょう一日にしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長(成松園巴さん)御異議なしと認めます。よって、会議の期間は、きょう一日と決定いたしました。

---

知事あいさつ

議長(成松園巴さん)それでは、これから綿屋副知事さんのごあいさつがあります。

〔綿屋副知事 登壇〕

副知事(綿屋滋二さん)ただいま成松議長さんから御紹介をいただきました、山口県副知事の綿屋滋二と申します。

きょうは、二井知事がこの子ども議会を、実は大変楽しみにしておりましたが、先ほど島田議長さんからも御紹介ございましたように、急遽<sup>きゅうきょ</sup>上京しなければいけないというような用務ができました。私がかわってごあいさつをさせていただきます。

皆さんがおられますこの議事堂は、大正5年に建築をされました。そして、

大正、昭和と二つの時代にわたって、県民福祉の向上と山口県勢の振興・発展のために、当時の執行部、知事さん、そして当時のまた、議員の皆様が、<sup>ちょうちょうはっし</sup>丁々発止、議論を交わしてこられた場所であります。いわば、山口県の歴史をつくってきた建物と言っても、言い過ぎではないと思っております。

きょうは、平成に生まれ、育った皆さんが、この議事堂に、県内各地の中学生を代表して、お集まりになりました。そして、ふるさと山口の活性化の問題、また災害や環境問題、教育や就職問題、そしてスポーツの振興策、そういった、日頃疑問に感じておられること、またこうしてほしい、ああしてみたい、そのような思いを、この議場で質問をしていただき、そしてそれに県の教育長や担当部局長が答弁をするという、まさに県議会さながらの要領で議事運営されると伺っております。

皆様方にとって、せつかくの機会であります。しっかり山口県に対する思いのたけを質問をしていただき、この経験を、これからの、また人生にも生かしていただきたいと思っております。

きょうの経験を、また家庭に帰って、学校に帰って、家族の皆さんや友人の方々と議論をしていただきながら、皆様方にも議会や行政に対する関心を高めただけであればと思っております。

皆さんは、これから一人一人の夢の実現に向けて、勉強や経験を積み重ねながら、そして、心身ともにたくましい防長っ子として、この山口県をこれから担っていただきたい、支えていただきたい。そして、日本の未来を開く立派な人に育てていただきますよう、心から念願をいたしております。

以上をもって、私のあいさつとさせていただきます。（拍手）

---

## 日程第二、一般質問

議長（成松園巴さん）日程第二、県の仕事についての質問を行います。

順番に発言を許します。

由宇中学校の坪田和平さん。

〔坪田和平さん 登壇〕（拍手）

坪田和平さん 「ふるさとの活性化について」

僕たち由宇中学校2年生は、総合的な学習の時間で、これから先の進路についての学習を進めてきました。そして、その学習の中で、自分の希望する職業について調べたり、由宇町内にあるさまざまな事業所に行き、実際に仕事もさせていただきました。が、そこで一つの問題にぶつかりました。それは、多くの生徒が自分の希望する職業を体験することができなかったということです。

なぜこのようになったかということ、それは由宇町に若者がつきたいと思う働き口が少なかったからです。このことは、町の過疎化にもつながると思います。

自分の希望する働き口がない若者は、当然、故郷を離れていくこととなります。若者が離れていくことによって、その地域は労働力が減少し衰退していくからです。

僕のクラスでは、社会科の授業に先生が、「将来この町に住もうと思ってい

る人」とアンケートをとったところ、ほぼ全員が由宇町から出て働くと言いました。僕は、緑が多いこの由宇町が好きなので、少し危機感を感じました。

なので、このような現象を防ぐためにも、僕は、まず若者が今、就職したいと思っている職業について調べ、その職業の働き口を増やすことによって、少しでも町の活性化につながると思うのですが、二井知事は、町や村の活性化について、どのようにお考えでしょうか。（拍手）

議長（成松園巴さん）綿屋副知事さん。

〔綿屋副知事 登壇〕

副知事（綿屋滋二さん）二井知事への質問ですが、不在ですので、副知事の私が答弁をさせていただきます。

由宇中学校の坪田議員のふるさとの活性化についての御質問であります。

まず、総合的な学習の時間に体験したことや感じられたことを通して、ふるさとの将来のことをしっかり考えておられることを、大変心強く思っております。

坪田議員の御質問にもありましたように、新しく働くところをつくり出し、特に、皆さんのような将来を担う若者にとって魅力ある職場を確保していくということは、地域の活性化を図るために、とても重要なことだと思います。

そこで、県では、市町村を初め多くの方々と一緒になって新しい企業を誘致したり、中小企業が発展するためのお手伝いをしたりする組織を持っておりますが、さまざまな施策にも取り組んでおります。

また、若者の就職相談から職業の紹介まで、幅広くサポートを行う「若者就職支援センター」を新しくつくりましたが、ここでもいろんな若者の就職支援をいたしております。

また、最近、マイカーが普及したり、道路がよくなることで交通事情が大きく変化をしておりますし、インターネットや携帯電話が広く普及することなどで、人々の毎日の暮らしの行動範囲も大きく広がろうとしております。

このような社会の変化にあわせて、市町村合併の取り組みも進められており、坪田議員が住んでおられる由宇町を含む岩国地域でも、来年3月には合併によって、人口が約15万人の新しい岩国市が誕生いたします。

市町村が合併すると、まず、町の規模、財政規模あるいは行政規模、こういったものがまず大きくなります。同時に、例えば人件費等、節約が可能となります。

四つの町が合併する、あるいは五つの町が合併したら、例えば、市長さんは一人でいいわけですから、残りの市長さんの人件費がいらなくなるような、極めて簡単な説明をいたしますと、人件費等の節約が可能になりますし、そうして財政運営の効率化を進めることによって、その市町村は、さまざまな住民の方の希望・要求、これニーズといいますけれども、そうしたものに対して幅広い選択肢のなかで柔軟な取り組みが可能となってまいります。また、それを生かしていかなければならないと思います。

いま、そのことを、ちょっと難しい言葉になりますけれども「スケールメリ

ット」という言葉があります。また、家に帰り、学校でその言葉の意義等も勉強していただければと思います。

今、山口県の活性化、やっぱり中核となる都市がないということです。中核となる都市を、これからつくっていくことによって、活性化というのは情報がたくさん集まる町でなければなりません。情報が集まるところには人がどんどん集まってくるんです。それはもう、持ちつ持たれつ、人が集まるところにだからこそ情報も集まりますし、情報がほしいために人が集まってくるということになります。そうしたところには働く場所が自然に生まれてくるんです。働く人がたくさんおられると、企業も雇用の場をそこに提供をしてくれます。

こうした取り組みによりまして、これまで以上に若者の皆さんが、県内のいろいろな分野で、その能力を発揮する機会をつくり出したい。ふるさとが活性化するように努力していきたいと考えております。

皆さんも、自分たちのふるさとをどのようにしたいのか、そこで自分たちがどんな役割を果たすことができるか、しっかり考えていただき、いろんな機会に皆さん同士でも意見を交わして議論していただければ幸いです。

以上で私の答弁を終わります。（拍手）

議長（成松園巴さん）麻里布中学校の瀧真理子さん。

〔瀧真理子さん 登壇〕（拍手）

瀧真理子さん 「災害への対策について」麻里布中学校、2年、瀧真理子。

先日、スマトラ沖地震による津波で大きな被害が出ました。

私たちの住む山口県も、地震、津波、台風、洪水などの自然災害に、いつ見舞われるかわかりません。そう思うと、大きな災害が起こったときの私たちは、どう行動すればよいのか、私たちの学校はどうなるのか気になります。

そこで、大きな災害が起こったとき、県は、どのように対処されるのか、質問したいと思います。

一番不安なのが、私たちの学校生活です。

大きな災害が起きたときの避難場所には、学校が指定されていると聞いています。でも、私たちの通う麻里布中学校は、歴史が古く、校舎の老朽化も進んでいます。実際、4年前の芸予地震の時は、校舎のあちこちに被害が出たそうです。

こんな状態で、いざというときの避難場所として役立つのでしょうか。

また、学校が、避難場所になったあとの私たちの学校生活も不安です。何らかの形で勉強は続けられるのですが、来年、受験を控えているだけに心配です。

もう一つ気がかりなのが、家庭生活です。もし、被害にあったとき、どのように対処をしていただけるのでしょうか。

昨年の台風のとき、屋根が飛ばされた家がありました。私の友人の家もそうです。その友人が「お母さんが市役所に連絡したけれど、十分に対処をしてもらえなかった。」と言っていました。

このように、いざというとき、どこに連絡してどのように行動したらよいか、

わかっていない人がほとんどではないかと思います。

学校での避難訓練は経験しましたが、もし、災害が起きたとき、県はどのような対策をとられるのか、私たちの学校はどうなるのかを教えてください。

最後にお願いです。私たちにもわかるような災害対策マニュアルをつくってください。よろしくお願いします。（拍手）

議長（成松園巴さん）西村総務部長さん。

〔西村総務部長 登壇〕

総務部長（西村亘さん）防災対策を担当しております総務部長の西村でございます。

麻里布中学校の瀧議員さんからの災害に関する6点の質問をいただきました。

学校に関するお尋ねは、私の後、教育長の方からお答えを申し上げます。

私からは、まず、家庭生活が被害にあったときの県の対応、また地域や家庭で皆さんがどのように対応すべきかという問題。そして、わかりやすい災害対策マニュアルの作成の3点について、お答えをさせていただきます。

まず、家庭生活が被害にあったときの県の対応等についてでございます。

昨年は、日本各地で、そして世界じゅうで大規模な災害が次々に起こり、山口県も台風で大きな被害を受けました。また、先日は、御承知のように、福岡県で震度6弱の大きな地震が発生しました。

よく聞かれることわざに「災害は忘れた頃にやってくる」と言われますが、今は忘れる間もなく災害が発生しており、いつどこで起こるかわからない災害に対して、常に備えておくことは大変重要なことでございます。

このため、県や市町村では素早く災害に対応できるよう、日頃から防災訓練などを行っており、災害発生時には、防災計画であらかじめ決められた役割に沿って、さまざまな対策を実施します。

例えば、台風の場合は、大変重要となります。台風の進路や、あるいは雨の量など、気象情報を早くつかみ、住民の皆さんに早めの避難ができるよう情報を提供いたしております。また、被害が発生したときは、救助や医療活動、電気や水道等のライフラインの応急工事などを実施し、大きな災害では自衛隊にも出動を要請しております。また、小学校や中学校の体育館がよく利用されますが、住民の方々の避難所の運営や被災者への食料の提供、仮設住宅の建設など、さまざまな支援を行っておりでございます。

次に、地域や家庭での皆さんの対応についてでございます。

災害時の被害を軽くするためには、皆さんに「みずからの命はみずから守る。そして、自分たちの地域は自分たちで守る。」という考えを持っていくことが大変重要となっております。

このため、住民の皆様には、自治会等を中心に組織されている自主防災組織に参加して、防災知識などを身につけていただき、さらに家庭では災害情報の入手方法や避難場所の確認、あるいは預金通帳や印鑑、あるいはそれ以外もあると思いますが、持ち出し品の準備、家族の連絡方法等、いつも日頃から話し合っていたいただきたいと思います。

次に、わかりやすい災害対策マニュアルについてですが、災害時にどう行動すべきかをだれもが理解しやすいようにしておくことは、大変重要なことです。

このため県は、テレビやラジオや、あるいは県の広報誌等を活用し、わかりやすい広報活動に努めるとともに、皆様の住む地域の危険箇所や避難場所等を地図で示し、災害時の注意点などを書かれた防災マップ等の作成について、市町村と協力しながら、その取り組みを進めていきたいと考えております。

県といたしましては、県民の生命や財産を災害から守るため、県民の皆様とともに力を合わせながら、防災対策の充実に重点的に取り組んでまいります。  
(拍手)

議長(成松園巴さん) 藤井教育長さん。

[ 藤井教育長 登壇 ]

教育長(藤井俊彦さん) 教育長の藤井です。

私からは、大きな災害が起きたときの対応についてのうち、教育に関連した3点の御質問にお答えいたします。

災害が発生した場合、大変いろいろな不安が起こるものであります。

まず、瀧議員が通学しておられる麻里布中学校は、老朽化して避難場所として役立つかどうかという質問についてです。

麻里布中学校は、災害時の避難場所の一つとして指定されておりました、大きな地震が起きたときに、校舎や体育館などが倒れないで持ちこたえられるかどうかについて、現在、岩国市が建物の健康診断を行っております。

今後、この診断の結果に基づいて、必要があれば岩国市が建物の補強などを行うこととなりますので、学校運営や避難場所として問題が生じないように、県としてもバックアップしていきたいと思っております。

次に、学校が避難場所となった場合、勉強が続けられるのかどうか、学校生活面の不安についての質問です。

大きな災害が発生した場合、被害にあった地域の皆さんの安全を確保するために、避難場所となった学校では、授業などに影響が出ることも考えられます。

このため、県は市町村や学校と連携をしながら、教室の確保や教科書の支給など必要な対応を行って、できるだけ速やかに平常どおりの授業を再開しますので、御安心ください。

最後に、災害が起きたときの対策についてですが、麻里布中学校を初め、県内の各学校で、災害だけでなく不審者の侵入などにも対応できるように、避難誘導や救護の仕方などを細かく定めたマニュアルを作成しております。このマニュアルに基づいて避難訓練などを実施し、火災、台風などの災害に備えております。

これからも県教育委員会では、市町村教育委員会と一緒に、学校の安全対策を進めていきますので、瀧議員も安心して勉学、スポーツに励んでいただきたいと思います。

以上です。(拍手)

議長(成松園巴さん) 平生中学校の西隼太郎さん。

〔西隼太郎さん 登壇〕（拍手）

西隼太郎さん 若者の就職問題では、フリーターや失業者に注目が集まっています。フリーターはまだ働く意志を持っていますが、働こうともせず、学校にも通っておらず、仕事につくための専門的訓練も受けていないニートと呼ばれる若者が、25歳未満でも40万人おり、増加傾向にあるという報告があります。簡潔に言えば、働くことにも学ぶことにも希望をなくした若者が増えつつあるということです。

ニートが増えている原因は、さまざまな要因が複雑に絡み合っているようですが、最大の原因は働く自分に対する自信がないことだそうです。したがって、学校では、働くことに対する自信をつけさせることが大切ですが、具体的にどのような対応をされているのかお聞かせください。

私は、働く自信をつけさせる有効な手立ての一つが職場体験であると思います。

平生中では、2年生が2日間、地域の40余りの事業所で行っています。

私自身、小学校で職場体験を行いました。思っていたよりも小学生に説明したり、教えたりすることが難しいことに気づきました。また、職場体験を通して、社会とのかかわりが持て、将来に希望を持つことができました。しかし、小学校の先生から指導を受けて、次はこうしてみたいとか、もっと小学生にとけ込みたいと思ったところで終わってしまい、正直、物足りなさも感じました。

職場体験を全県下の中学校で5日間行っている兵庫県や富山県の事例によれば、生徒の顔つきが変わり、効果が現れるのは3日目、4日目以降ということです。また、不登校生徒が、この職場体験をきっかけに登校できるようになるケースもあるそうです。

山口県の学校では、1日または2日間が大半で、3日以上行う学校は少ないのが現状です。ニートの増加に歯止めをかけるためにも、本県においても中学校すべてにおいて、職場体験を5日間行う「チャレンジ・ウィーク」を始めてみてはいかがでしょうか。（拍手）

議長（成松園巴さん）藤井教育長さん。

〔藤井教育長 登壇〕

教育長（藤井俊彦さん）それでは、平生中学校の西議員の、若者の就職問題についての2点の御質問にお答えいたします。

まず、働くことに自信をつけるための学校の対応についてであります。西議員の御意見と同じように、私も、学校教育において、働くことへの意欲や自信を育てることは、大変大切であると考えております。

皆さんは、日々の学校生活の中で、委員会活動や学校行事における活動、地域の行事やボランティア活動への参加、職場体験やいろいろな学習活動、さまざまな活動に取り組んでおられると思います。これらの活動は、いずれも、社会の一員としての役割や働くことへの意義などを学び、社会に出てからの自信につながるものですので、皆さんも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

県教育委員会では、このような皆さんの体験活動を効果的に進めるための学習のプログラムを作成しております。また、地域や産業界などとの連携協力を進めて、希望に沿った職場での体験学習が行われるように努めてもおります。

次に、チャレンジ・ウィークの実施についてです。

現在、県内の多くの中学校で職場体験が実施されております。参加された生徒の皆さんの感想を聞いてみますと、「自分も社会の中で役に立つことがわかった」、「新しい自分に出会うことができた」、「大人の苦労が実感できた」などの感想を聞いております。

このような体験を通して学んだことを、学習意欲の向上や将来の進路選択、また友達との人間関係づくりなどに生かしていくことが大切であると考えております。

県教育委員会では、来年度から、西議員の御提案にありましたように、5日間の職場体験にも取り組むなど、学校における体験学習の一層の推進を図って、皆さんが、将来、社会の中で役割を果たし、自信を持って働き、自立できるように努めてまいりたいと思います。

以上です。（拍手）

議長（成松園巴さん）日積中学校の加藤菜摘子さん。

〔加藤菜摘子さん 登壇〕（拍手）

加藤菜摘子さん 私は、3月31日まで柳井市立日積中学校の生徒ですが、4月1日からは、柳井市立柳井中学校の生徒となります。4月からどんな生活が始まるのか、とても楽しみにしています。

2年前の小学校6年生の時に、市内の大里小学校と日積小学校の統合を経験しました。児童の数が倍に増え、学校に活気が出てきたことをきのうのこのように覚えています。新しい柳井中学校がすばらしい学校になるようがんばります。

しかし、目を学校の外に向けてみると、あまりよいことばかりではなかったような気がします。

統合された日積小学校では、土曜日や日曜日にも子どもたちの元気な声が響きわたっているのに、閉校された大里小学校の周りはとても静かでした。大里地区の方々は地域を盛り上げようと、残された校舎を利用してミニコンサートなど、さまざまな行事を行ったりしていらっしゃいます。

しかし、どんなに行事を行っても、登下校で毎日いろんな方と会うことにはかきません。私たちが、「おはようございます。」とあいさつをすると、「おはよう、気をつけんさいよ」と、必ずあいさつ以上の言葉が返ってきます。

4月からは、中学生もスクールバスに乗って通うことになり、地域の方々とふれあう時間が少なくなります。

むだを省いて有効に税金を使うことは、とても良いことだと思います。ただ、むだを省く中で、失われていく良いものもあるはずで、世の中には省いてはいけないむだもあるはずで、

そこで、若者が安心して生活できる山口県づくりについて、どのように考え

ておられるかお聞きします。

また、むだを省きながら、失うものをできるだけ少なくする教育のあり方について、お聞きします。

もちろん、私たちも地域の一員ですから、自分にできることは一生懸命やっ  
ていくつもりです。（拍手）

議長（成松園巴さん）三好総合政策局長さん。

〔三好総合政策局長 登壇〕

総合政策局長（三好猛さん）日積中学校の加藤議員の若者が安心して生活できる  
県づくりについての御質問にお答えいたします。

日積中の生徒の皆さんが、毎朝、地元の方々と元気な、心のこもったあいさ  
つを交わされる姿が想像され、とても温かい気持ちになりました。

若い人たちが、安心して住みたいと思う地域づくり、県づくりのためには、  
まず、自分が生かせる働く場所があるか、快適でにぎわいのある場所がある  
か、また、地域に活気があるかなどが重要ではないかと考えております。

こうしたことから、県では、まず、働く場所の確保として、若者にとって魅  
力があり、地域へいろいろな効果が期待できる企業の誘致や、地域におけるさ  
まざまな産業の振興に取り組んでいます。

また、高校卒業生の県内企業への就職促進に力を入れるとともに、若者が自  
分の個性や能力にあった仕事を県内で見つけることができるよう、昨年4月  
には、新山口駅の近くに「若者就職支援センター」を設置し、若者の就職を支援  
しています。

次に、快適でにぎわいのある町づくりについては、道路や公園などの生活環  
境の整備を進めるほか、情報サービスやデザイン、文化などの都市型の産業が  
集まるよう、大きな都市、いわゆる中核都市づくりを進めているところです。

また、過疎化が進みつつある地域についても、市町村と協力しながら、暮ら  
しやすい環境を整備するとともに、農林水産物の生産と加工、販売、観光など  
地域資源を生かした産業の振興や、都市の人が農林業などを体験をしたり、自  
然・文化に親しみ、人々との交流を楽しむ、グリーン・ツーリズム等の新しい  
取り組みも進め、いつまでも、元気がある地域にしていきたいと考えています。

今後とも、こうした取り組みを進め、若い人たちにとって、安心して生活が  
でき、日本一住み良いと言えるような山口県をつくっていききたいと考えており  
ます。（拍手）

議長（成松園巴さん）藤井教育長さん。

〔藤井教育長 登壇〕

教育長（藤井俊彦さん）私からは、むだを省きながら、失うものをできるだけ  
少なくする教育のあり方についての御質問にお答えいたします。

児童生徒の減少が続いております中で、小中学校の統合等が進められており  
ます。

そういうときに、加藤議員の御意見のように、そういう中であって、人と人  
との温かいふれあいを通して、地域とのつながりを深めることは大切でありま

すし、皆さんには、生まれ育った地域を大事にさせていただきたいと思っております。

各学校では、総合的な学習の時間に、自分の住んでいる地域の自然や文化について調べるため、生徒の皆さんが地域の人に話を聞きに行ったり、また、地域の伝統芸能を継承していくために、学校へ来ていただいたりして、それぞれが生まれ育った地域とのかかわりを深めている取り組みなどが見られます。

また、学校や公民館等を活用して、放課後や週末における子どもたちのさまざまな体験活動や、地域住民の方との交流活動を支援する「地域子ども教室」を行っておりますし、地域の人たちが、ボランティアとして、その活動に参加していただいております。

人と人とのつながりを大切にして、地域の一員として自分に何ができるのかを考えていく加藤議員の姿勢はすばらしいものであると思います。

時代はどのように変化しても、どういう改革が進められても、地域において大切にしたい、引き継いでいきたい、そういう「良いもの」を見い出して、周りの人たちに伝え広げていく取り組みが必要であるというふうに思っております。

県教育委員会でも、そういうふうな地域で伝え広げていく取り組みが、これからも引き続いて続きますように、積極的に支援していきたいと思っております。

以上です。（拍手）

議長（成松園巴さん）光井中学校の石川善規さん。

〔石川善規さん 登壇〕（拍手）

石川善規さん 僕たちの学校、光井中学校では、2月25日に、見城選手をお招きして、講演会を開催しました。

見城元一選手は、僕たちの町、光市の海で練習を重ね、ヨットのセーリングという種目で、アテネオリンピックに出場され、日本人最高順位でゴールされた方です。

講演はすばらしい内容で、セーリングのボートを実際に体育館で組み立ててくださったときは感動しました。

見城選手のお話の中で、僕が「えっ」と思ったのは、見城選手が「神奈川県出身」だと知ったときです。僕は、それまでは、我が光市出身で、マラソンの国近選手や、長門市出身の油谷選手のように、てっきり「山口県のどこかの町出身」だと思っていたのです。

見城選手は、日本全国の海でセーリングをしてみて、光市の海はきれいだし、ロケーションもいいし、ヨット競技に「全国の中で最適の海」だということで、神奈川県からオリンピックを目指して、光市に来て練習をされていると言います。

僕は、陸上部で長距離をやっていますが、確かに光市は海あり、山あり、海岸の砂浜と松もきれいなところですよ。走っていても、爽快な風に気分よく練習ができます。そして、陸上の合宿などでよく利用する施設も、充実していると

思っています。

陸上にとっても、悪い場所ではありません。見城選手は「ヨットにとっては日本一」と言います。

しかし、このことは案外人々に知られていないのではないのでしょうか。山口県の他の地域にも、ある競技に最適の日本一の場所があるかもしれないと思います。

これを県内外に大々的に発信し、多くの一流選手が山口県に集まってくるようにすることで、スポーツ振興を推進していくといいのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

スポーツ振興の基本的な考え方とともに質問いたします。（拍手）

議長（成松園巴さん）藤井教育長さん。

〔藤井教育長 登壇〕

教育長（藤井俊彦さん）光井中学校の石川議員のスポーツ振興についての御質問にお答えいたします。

石川議員は、陸上部で長距離に取り組む中で、体力や精神力を養ったり、爽快感とか達成感を味わい、仲間との友情を深めるなど、たくさんの大切なものを手にしていると思います。

このように、スポーツは、心と体の健康をはぐくむことはもちろんですが、生きがいのある豊かな暮らしや、また明るく活力に満ちた地域づくりにも大いに役立つものです。

このため、本県では、子どもから高齢者まで、誰もが気軽にスポーツを楽しむ生涯スポーツ社会の実現に向けて、学校においては体育・スポーツ活動の充実やスポーツ少年団など地域のスポーツクラブの活性化、さらには、2011年に山口県で開催する「国民体育大会」を視野に入れた選手の育成・強化など、さまざまなスポーツ振興に積極的に今取り組んでおります。

また、県内には今、御質問の中で紹介いただきましたように、見城選手やナショナルチームが強化合宿を行う、光のスポーツ交流村のほかにもすばらしい競技環境があります。

例えば、実業団のハーフマラソンが山口市で開かれております。オリンピックのゴールドメダリストの野口みずき選手や、地元の、今度、世界陸上選手権の代表になります高岡寿成選手、またアテネオリンピックでマラソンの5位の油谷繁選手を初め、たくさんのトップアスリートがこのハーフマラソンに参加しておりますけれども、この山口市のコースは、平坦で好記録が生まれる、そういう山口循環コースが使用されております。

また、山口県のセミナーパークには、来年、18年から都道府県代表の中学生ランナーが競います「全国中学校駅伝大会」の舞台として、それから6年間使用されることが決まっております。

自然を生かした本格的なクロスカントリーコースが整備されておりますので、山口県にも全国に誇れる場所がたくさんあります。

これからも、トップレベルの大会の誘致などによって、本県の優れた競技環

境やスポーツの施設を広く全国に発信して、一流選手が集まって、そしてその選手たちとふれあうことができるスポーツ振興に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

以上です。（拍手）

議長（成松園巴さん）鹿野中学校の田中大恵さん。

〔田中大恵さん 登壇〕（拍手）

田中大恵さん 鹿野中学校は、周南市の北部、中国山地の山合いにある全校生徒数が100名余りの小規模の学校です。

鹿野地区は、周南市の中でも過疎化と少子高齢化の傾向が多く見られる地域です。私たち鹿野中学生にとっても、「過疎化」や「少子高齢化」は他人事ではありません。

お手元の一般質問参考資料をごらんください。

これは、私たち2年生が社会の授業で行った「山口県政への要望」のアンケート結果です。

自分たちの身の回りに、コンビニやCDショップがほしいという人が多いのですが、売り上げが見込めない地域では望み薄です。

それだけではありません。人口の減少に伴って、地域の活気も失われていくようで、私たち鹿野中学生の中にも、若者が集中している都市部へ出て生活したいと思っている人が多いようです。このことは、山口県全体でも同様のことが言えるのではないのでしょうか。

私たちは、このアンケートの後に、山口県の人口を増やし産業を活性化するために、また、郷土への自信や誇りを持ってもらうために、どんな取り組みが必要か話し合いました。その結果、「県内外の人々にとって山口県の印象が薄い」、「山口県の良さや便利さをもっと国内外の人々に知ってもらうために、積極的にPRを行うべきである」、「韓国や中国からの人々を受け入れては」などの意見が出ました。また、私たち自身、山口県について、まだまだ勉強不足であることもわかりました。

山口県の良さというと、多くの人が豊かな自然や農林水産物などをあげます。しかし、私たちは気づいていないのかもしれないかもしれません。観光地にも、文化や伝統にも、また、産業先端技術や福祉介護事業にも、国内や世界に誇れるものがたくさんあるということ。それを自覚することが、私たちや周囲の大人たちにも必要なのかもしれない。

そこで、私たちからの質問です。山口県の活性化を図る手段として、山口県の良さを育て、かつ、内外に知らしめる政策をどのように行っているかを教えてください。

全国、いや世界に誇ることでできる山口県の良さを。（拍手）

議長（成松園巴さん）三好総合政策局長さん。

〔三好総合政策局長 登壇〕

総合政策局長（三好猛さん）鹿野中学校の田中議員の山口県の良さを育て、内外に知らしめる政策についての御質問にお答えします。

鹿野中学校における山口県政についてのアンケートの実施や話し合いなど、ふるさとを愛する皆さんの取り組みを大変頼もしく思いました。

山口県は、秋吉台や長門峡などの自然景観、大内文化や明治維新などの歴史・文化、さらには高い生産力や技術力を持つ石油、化学、鉄鋼などの工業、多彩な食べ物を提供する農林水産業、人づくりに熱心な教育など、全国的に誇れるさまざまな特色を持っています。

今後、山口県を活性化していくためには、御質問にもありましたように、本県の良さをさらに伸ばしていくとともに、十分でないものがあれば、これをレベルアップし、多くの面でバランスがとれた本県の魅力を、県内はもとより全国の方々に知ってもらうことが重要であると考えています。

また、県では、二井知事の提案で、「やまぐち方式」という取り組みを行っています。これは、本県の特性を生かして、他県よりも一歩進んだ取り組みを行い、それを積極的に情報発信することにより、山口県の活力と知名度を高めたいとするもので、これまで、中学校のすべての学級を35人以下とする取り組みを全国トップで行いましたし、環境の分野でも、ごみを焼却したあとの灰をセメントの原料として活用する、他県には例のない取り組みなどを行い、全国からも注目をされてきました。

県では、こうした取り組みをさらに発展させ、子どもからお年寄りまで「山口県に生まれ、学び、そして住んでよかった」と実感できる「住み良さ日本一」の山口県を実現していきたいと考えています。

また、インターネットを使って、山口県の情報や写真を載せたメールマガジン「山口きらめーる」を配信したり、東京と広島に「おいでませ山口館」という情報発信のための拠点をつくり、観光や特産品のPRを行うなどの情報発信事業にも積極的に取り組んでいます。

今後とも、このような取り組みを進め、また皆さんが行われたアンケートも参考にさせていただき、皆さんがふるさとを誇りに思い、いつまでも住み続けたいと思えるような山口県をつくっていききたいと考えております。（拍手）

議長（成松園巴さん）黒石中学校の浅田悠さん。

〔浅田悠さん 登壇〕（拍手）

浅田悠さん 私たち黒石中学校では、学活の時間に進路について学習をしました。その中で、将来どんな仕事がしたいか、仕事に対する意義等、これからの自分たちの将来について考えました。

やりたい仕事は、保育士や調理師、福祉関係の仕事など、さまざまな仕事がありますが、まだわからないという生徒も3分の1います。また、仕事の意義については、生きがいとしたいと考えている生徒は約30%、趣味を生かすために約25%、生活していくためと考えているのは約40%です。このように、多くの生徒は、自分の将来について真剣に考えています。

しかし、一方では、不安なこともあります。高校や専門学校、大学卒業後の就職率は、年々減少していて、アルバイトで生活しているフリーターや、何もしないニートが急増しています。厚生労働省が発表した2004年度の労働経

済白書では、ニートの数は年平均52万人、フリーターは200万人以上に上り、増加の一途をたどっています。もし、このままニートやフリーターが増えるとどうなるのでしょうか。今後の日本の産業や経済、ひいては社会の維持・発展にとっても影響すると考えられます。

また、完全失業率の増加も心配なことです。今の日本の経済状況からすると、まだこれから増える可能性もあります。

私たち黒石中の2年生の生徒も二人に一人が、仕事が見つかるだろうか、続けられるだろうか、将来一人で生活ができるだろうか、など将来への不安を感じています。

そこで、お聞きしたいことが二つあります。

一つは、これらの現状を踏まえ、山口県として、若者就職支援センターがオープンしたり、インターネットを利用して情報を得ることができたりと、さまざまな対策を立てておられますが、その効果をお聞きしたいと思います。

二つ目に、次第に厳しさを増す社会に巣立つ私たちが、将来に向けて、今、中学生として学んでおくべきことは何だとお考えでしょうか。

私は、人から言われて行動するのではなく、みずから考え責任を持って行動することや、さまざまな発想や想像力が必要だと考えます。

御意見をお伺いしたいと思います。

以上、御回答よろしく申し上げます。（拍手）

議長（成松園巴さん）伊藤商工労働部長さん。

〔伊藤商工労働部長 登壇〕

商工労働部長（伊藤俊昭さん）黒石中学校の浅田悠議員の将来の就職問題についての質問のうち、若者の就職支援対策の効果についてお答えします。

近年、技術の革新等が進み、企業が高度な知識や専門的な技術を持つ人を求める一方で、若者の職業観や人生観が多様化しており、失業している若者やフリーター・ニートが増加しています。

このため、山口県では、昨年4月、全国でもいち早く、就職相談から情報提供、能力開発、職業紹介に至るまで一貫したサービスをワンストップで提供する「若者就職支援センター」を、新幹線「新山口駅」前にオープンしました。

この若者就職支援センターは、皆さんから「ＹＹジョブサロン」と愛称をつけていただき、国から全国15ヵ所のモデル地域にも選定されています。

ＹＹジョブサロンでは、若者に身近な情報源となっているインターネットや携帯電話を活用し、就職に役に立つ情報を発信するとともに、県内の大学等9校をセンターの支所として活用して、定期的にキャリアカウンセリングやセミナーを実施しています。今年2月末までの11ヵ月間の利用者数は18,553人、就職したいとして登録した人は、4,906人で、オープン当初の目標を大きく超え、既に1,587人の就職が決定するなど、大きな効果が出ています。

また、利用者からは、「就職への意欲がわいた」、「自信がついた」、「大変役に立った」という声がたくさん届いています。

来年度はオープン2年目になりますので、これまでの支援に加え、新たに、一つ、各地の大学や図書館を活用してYYジョブサロンの支所機能を拡充する、二つ、人材育成プログラムに基づき、職業能力の開発を支援する、3点目、「ニート相談窓口」を開設するなど、YYジョブサロンの機能をさらに充実・強化し、一人でも多くの若者が就職できるよう、積極的に取り組んでいきます。

以上です。（拍手）

議長（成松園巴さん）藤井教育長さん。

〔藤井教育長 登壇〕

教育長（藤井俊彦さん）私からは、「中学生として学んでおくべきこと」についての御質問にお答えいたします。

中学生の時期は、自分探しの旅の真ただ中にあり、これから社会の一員として生活していくための大切な準備段階と考えております。

浅田議員の御意見にありましたように、みずから考え責任を持って行動することや、豊かな発想や想像力を持つことは、とても大切なことだと思っております。

そこで、中学生の皆さんにぜひ学んでほしいことが3点あります。

まず、1点目は、「自分の個性や適正を知って、自分の夢をはぐくむ」ということであります。

中学校では、授業や部活動を通じて、学ぶことや働くことへの関心を持ったり、また興味のあることを深く追求したりして、「こんな人になりたい」「こんなことをしてみたい」という自分の夢や希望を大きくはぐくんでほしいと思います。

2点目は、「人とのかかわりの中で、自分を見つめ、成長していく」ということです。

同級生だけでなく、先輩・後輩、また先生や地域の多くの方々とのかかわり、また職場体験やさまざまな経験を積む中で、周りの人の意見や考えをしっかりと聞き、また自分の思いをきちんと伝え、みずから考え行動しながら、成長していくことが重要だと考えております。

3点目は、「目標・夢に向かって、チャレンジ・努力する」ということです。

自分の決めた目標の達成に向けて、豊かな発想と果敢な行動力をもって、失敗を恐れずにチャレンジし、また努力を続けてほしいと思っております。

私は、将来のふるさと山口を担う中学生の皆さんが、自分の夢や希望に向かって一生懸命努力できるように、これからも、積極的に応援していきたいと思っております。

以上です。（拍手）

---

議長（成松園巴さん）ここで、10分間休憩いたします。

休 憩

---

## 開 議

議長（成松園巴さん）会議を再開し、質問を続けます。

議長（成松園巴さん）大嶺中学校の栗栖由稀さん。

〔栗栖由稀さん 登壇〕（拍手）

栗栖由稀さん 「地震対策について」。大嶺中学校、栗栖由稀。

大きくニュースで取り上げられている地震について、私はすごく興味を持ち、この子ども県議会でぜひ質問してみたいと思いました。

最近では地震が多く発生し、ニュースでもたくさん取り上げられています。

日本では、阪神淡路大震災より規模が大きな新潟県中越地震が発生しました。震度7・8でとても大きな地震でした。死者は阪神淡路大震災に比べ少なかったものの、たくさんの人々がこの地震により恐怖を覚えたようです。現に今も大きな恐怖、悲しみ、苦しみを味わいながら生活している人もたくさんいます。今はずいぶん良くなっていると思いますが、水、食料を得るのはとても大変だったと思います。

同じ日本という国で起きているこの自然災害。日本は地震国なのでいつ地震が起こるかわかりません。

新潟県中越地震が起きて、他の県はどのような援助活動をしたのでしょうか。山口県はどのような活動をしたのか教えてください。

ここ山口県は、自然災害が少なく、とても暮らしやすい自然豊かな県だと思います。しかし、いつ何時どんな自然災害が起こるかわかりません。

自然災害についての講習会やイベントなどが行われているのでしょうか。

私は今まで、自然災害について考えたことがありませんでした。最近、大きな力を持ち一瞬で多くの人を命を奪う可能性を秘めていると気づかされました。

いつ起こるかわからない災害こそ普段忘れがちになります。でも、このような災害に対応できる対策をとってあるのならば、私たちは、もっとそのことを知りたいと思います。そして安心して、この町で暮らしていきたいと思います。

私たちが暮らしているこの山口県では、自然災害についてどのような対策をしているのでしょうか。特に地震対策はどうなっているのでしょうか。

以上お尋ねしたいと思います。（拍手）

議長（成松園巴さん）西村総務部長さん。

〔西村総務部長 登壇〕

総務部長（西村亘さん）私からは、大嶺中学校の栗栖議員さんの自然災害、特に地震への対策についての3点の質問にお答えをさせていただきます。

まず、このたびの新潟県中越地震での援助についてでございます。

全国の都道府県では、災害時にお互いに応援しあうための協定を結んでおります。

今回の場合、被災地である新潟県に近い東日本の県を中心に、レスキュー隊あるいはヘリコプター等の救助チームや、医師・看護師からなる医療チームが

派遣され、3歳児の裕太ちゃんの救出など、人命の救出や、住民の移動に活躍したことは記憶に新しいことと思います。また、全国各地から、食料あるいは日用品等の提供が行われております。

我が山口県からも保健師12名を派遣するとともに、被災直後には大変厳しい冷え込みが続いていたということからして、山口県から直ちに、20万個のカイロ等、輸送を行うことや、生活用品等の救援物資を届けさせていただきました。また、多くの方々の善意の義援金もお届けをいたしました。

次に、講習会等についてでございます。

県は、県民の皆様には防災意識を高めていただくため、毎年、総合防災訓練や防災講演会などを開催しております。山口市にある県の消防学校では夏休みに少年消防クラブ員への研修会を行い、県のホームページではインターネットによる防災学習も可能となっておりますので、一度アクセスして体験をしてみてください。

また、自治会等を中心に組織される自主防災組織は、自分たちの住む地域の危険箇所や、あるいは避難場所などを知る良い機会になりますので、皆さんの家庭からもぜひ参加していただきたいと思っております。

次に、自然災害、中でも地震への対策についてでございます。

先日は福岡県で震度6弱の大きな地震が発生しました。また今世紀前半に発生が予想される東南海・南海地震や内陸での活断層の存在など、いつどこで発生するかわからない地震への備えは欠かせません。

このため、県では、各部の総力を結集して防災対策に当たることとしております。例えば、県立学校などで地震に耐えられるための工事を行ったり、地震発生後は速やかに救助や消火活動が行えるよう、消防や自衛隊等との日頃からの連携を図っております。

また、山口宇部空港には、県の消防防災ヘリコプター「きらら号」、あるいは県警察のヘリ「あきよし号」2機が、いつでも飛び立ち、そして出動できるようにしております。

また、情報通信の確保のため、衛星系・地上系の2つの防災無線に加え、全国一の整備といわれております「やまぐち情報スーパーネットワーク」、Y S Nと呼んでおりますが、こういうものも活用した新たな防災情報システムの整備を進めております。

今後、県としては、県民の皆様がさらに安心して暮らせるよう、新潟県中越地震なども教訓として、本県の防災体制をなお一層、充実強化してまいります。

(拍手)

議長(成松園巴さん)藤本土木建築部長さん。

[藤本土木建築部長 登壇]

土木建築部長(藤本聡さん)私からは、自然災害への対策についてお答えいたします。

県民の皆さんが安全で安心して暮らせる県土づくりを進めていくということは、行政の仕事の基本でありまして、また一番重要な課題でもありますので、

県では、自然災害から県民の皆さんの尊い命や大切な財産を守るためのいろいろな公共事業を行っております。

例えば、河川の洪水を防ぐためのダムや堤防、海岸の高潮を防ぐための防潮堤、また土石流などの土砂災害を防ぐための砂防えん堤などを、危険性の高いところから順次、計画的に整備を行っております。

また、県では、このような公共事業以外にも、防災に関する情報の提供など、さまざまな自然対策を行っております。

例えば、これまでも、河川の水位や海の潮位を、市町村役場の担当の方々、あるいは住民の方々に瞬時にお伝えするネットワークシステム、すなわち「土木防災情報システム」というふうに言っておりますが、「土木防災情報システム」の構築や、さらには土砂災害が起こる危険性のある箇所を地図に示した「土砂災害危険箇所マップ」の作成、あるいは公開などに取り組んでまいりました。

さらに、来年度からは、洪水や高潮のときに大きな被害が想定される川や海岸について、浸水予想区域や避難場所を示す地図、すなわち「洪水・高潮ハザードマップ」というふうに言っております、「洪水・高潮ハザードマップ」を、市町村の役場の方々に積極的に作成していただくこととしております。

また、先ほど申し上げました「土砂災害危険箇所マップ」につきましても、これまでのように市町村役場や主な郵便局に配備するだけでなく、誰でもインターネットで見えていただけるようにするなど、より充実させていただくこととしております。

今後とも、県としましては、自然災害の対策に積極的に取り組んでいくこととしております。

また、このたびの栗栖議員のように、県民一人一人の方々が、自然災害の対策に関心を持っていただくということは、大変重要なことだというふうに考えております。

以上でございます。（拍手）

議長（成松園巴さん）豊北第一中学校の小山由朗さん。

〔小山由朗さん 登壇〕（拍手）

小山由朗さん 僕たちは、総合的な学習の時間に「ふるさとの環境と私」という学年テーマをもとに学習を進めてきました。初めは砂漠化やオゾン層の破壊、酸性雨、大気汚染、地球温暖化などの環境問題を調べた後に、各自がテーマ設定をし、自分のテーマに沿って調べたり調査を行ったりしました。

僕は、「角島大橋完成後の角島の環境」というテーマを設定しました。

僕たちの町、豊北町には角島という美しい島があります。以前は船で渡らなければならなかったこの島も、5年前に角島大橋が完成して、多くの観光客が訪れるようになりました。角島には、ダルマガクやハマユウなどの、角島ならではの貴重な植物が生息しています。観光客の中には、そのような貴重な植物を摘んで帰る人もいると聞きました。

山口県は、自然豊かですが、観光地化された地域では、ごみを捨てたり、貴

重な植物を摘んだり、自然環境への悪影響が考えられます。

山口県では、県として、このような観光地化された地域の環境保全について、何か対策をとっているのでしょうか。

また、山陽側の工業地帯で、温室効果ガスや大気汚染、河川や海の水質汚染などの問題も考えられます。その他にも、酸性雨や赤潮など、僕たちの身近な環境について考えたときに、対策をとるべきことがたくさんあるように思われます。

経済発展もとても大切なことだと思います。「経済発展と環境問題の両立は難しい」と聞いたこともありますが、山口県では、現在、経済発展と環境問題のどちらを優先させて行政を進めているのでしょうか。

また、環境保全や環境問題に対して、どのような取り組みを実施しているのでしょうか。

この2点を僕たちに教えてください。（拍手）

議長（成松園巴さん）松原環境生活部長さん。

〔松原環境生活部長 登壇〕

環境生活部長（松原清さん）豊北第一中学校、小山議員の環境問題についての質問にお答えします。

山口県の豊かで美しい自然環境の保全と利用を適切に行いながら、次の世代へ継承していくことは、大変重要なことと考えています。

御質問にもありますように、多くの人々が訪れる観光地では、心ない人によって自然環境に悪影響を与えていることがあります。

このため、県では、自然公園の利用マナーの指導やパトロールを行う指導員などを配置したり、自然とふれあい、自然の大切さを学ぶための施設として「つのしま自然館」などを整備しています。

また、自然観察会などの自然に親しむ運動や、ごみ持ち帰りキャンペーンなどを実施しますほか、地域における自然を守り育てるリーダーを育成をするため、県内の小中学校に設置された緑の少年隊、74隊、2,600人の育成支援などを行っています。

さらに、貴重な動植物を保護するために制定した条例では、保護支援員として県民の皆さんに登録をしていただき、野生動植物の保護活動や生息調査などを行うこととしています。

このように、県では、県民の皆さんと一緒に自然環境の保全に取り組み、人と自然のふれあう魅力ある地域づくりを進めてまいります。

次に、経済発展と環境問題に関するお尋ねであります。

今日の地球温暖化などの環境問題は、私たちの日常生活や事業活動による環境への負担が増大していることが原因でございまして、問題解決のためには、一人一人がこれまでの生活のあり方を見直して、環境にやさしい循環型社会を築いていくことが必要であります。

このためには、環境や経済を取り巻く状況の変化に伴い、双方のバランスをとりながら、時代の変化に対応していくことが求められておりまして、199

2年に開催されました「地球サミット」以降、世界的にも共通認識として定着しています。

このような中、最近では、環境問題への対応が、新たな経済発展の鍵にもなると言われており、県におきましても、地域での環境対策が産業の育成にも結びつくよう、水素を新しいエネルギーとして活用する「水素フロンティア山口」というプロジェクトや、ごみの資源化、リサイクルを進める「エコタウン事業」というものを初めとして、環境と経済の両立を図る取り組みを積極的に進めているところです。

このように、環境問題への対応と経済の発展は、どちらも豊かな社会を維持、発展させるためには大切な要素ですので、どちらを優先するというのではなく、「バランスのとれた環境と経済」を目標としながら、今後の地域づくりを進めていきたいと考えています。（拍手）

議長（成松園巴さん）阿武中学校の白石沙也香さん。

〔白石沙也香さん 登壇〕（拍手）

白石沙也香さん 今、山口県内ではたくさんの学校が統合し、新しい学校が誕生しています。私が通っている阿武中学校も、本年度奈古中学校と宇田中学校の2校が統合してできた学校の一つです。

阿武中学校は、旧奈古中学校の校舎と、12月にできたばかりの新校舎で学校生活を送っています。阿武中学校ができて、まだ1年もたっていません。だから、現在の私たちが奈古中学校と宇田中学校の歴史を受け継ぎ、新たな伝統をつくりあげています。

ところで、現在少子化が進んでおり、学校がどんどん減ってきています。しかし、各学校にはたくさんの思い出が詰まっています。

奈古中学校は57年間も続いてきた学校です。一番多かった卒業生が160人、最後の卒業生が24人で、136人も昔に比べて減少しています。

昨年、私が通っていた宇田中学校も、同じく57年間という歴史で幕を閉じました。この学校は木造の建物で、地域の人たちが協力してつくりあげた学校です。歩いたりするとギシギシと音がしたりして、不自由なところがいくつかありましたが、地域の人たちの手でつくりあげた学校は、みんなのたくさんの思い出が詰まっています。

今までに、宇田中学校を卒業していった生徒は、1,700人以上もいます。しかし、1番多かった卒業生が83人、最後の卒業生が13人で、6分の1にまで生徒数が減ってしまいました。開校し、たくさんの生徒が通い、にぎやかだった校舎には、もう一人も生徒が通うことなく、話し声一つしない、静かな校舎になってしまいました。

そこで、山口県内の中学校は、これからもどんどん統合が進んでいくと聞いています。これでは過疎はどんどん進んでいくと思います。私の町も、若い人は見なくなっています。

地域を元気にするバロメーターは、たくさんの子どもが元気に学校に通う姿が見られることだと思います。

若い人の定住を促進させて、子どもの減少に歯止めをかけるような方法・施策を県としては何か考えておられるのでしょうか。（拍手）

議長（成松園巴さん）石津健康福祉部長さん。

〔石津健康福祉部長 登壇〕

健康福祉部長（石津敏樹さん）阿武中学校の白石議員の若者の定住促進についての御質問にお答えをいたします。

質問にもありましたように、たくさん子どもたちが学校に通う姿は、地域を元気にするバロメーターであり、県としましても、若者の定住促進や少子化に歯止めをかけるための取り組みを充実していくことが、大変重要であると考えております。

こうしたことから、まず、若い人たちが、山口県に住んでみたいと思えるような県づくりを進めるということで、さまざまな新しい産業の育成を初め、昨年4月に新山口駅前にオープンした「若者就職支援センター」での情報提供や相談、職業紹介など、若い人たちが県内で働き、定住できるような取り組みを行ってきております。そして、公園、道路、学校等の生活環境の整備や、若者にとって魅力的で快適なにぎわいのある町づくりなども、積極的に進めています。

また、子どもの減少に歯止めをかけていくためには、誰もが安心して子どもを生み、喜びを感じながら子育てができる環境をつくっていくことがとても大切ですので、これまでも、お父さんやお母さんが働きながら子どもが育てられるよう、保育所の整備や、早朝から夜間までの延長保育などのさまざまな保育サービスを増やしてきていますし、子育ての負担を軽くするために、小学校に入学するまでの子どもの医療費の無料化や、3人以上子どもがいる家庭の保育料の軽減なども行っています。

さらに、子どもたちが、多くの友達をつくり、一緒に楽しい時間を過ごせる放課後の児童クラブや、小さな子どもさんのいる親同士が交流できる場となる「地域子育て集いの広場」などの整備を進めてきており、これからも、社会全体で子育てを応援していけるような取り組みを一層進めていきたいと考えています。

県としては、県民の皆さんや市町村と協力しながら、「いつまでも子どもたちの明るい声や元気な笑顔が満ちあふれる山口県」にしていきたいと考えています。

以上です。（拍手）

議長（成松園巴さん）彦島中学校の嶋村諒夏さん。

〔嶋村諒夏さん 登壇〕（拍手）

嶋村諒夏さん 環境問題について、質問させていただきます。

環境問題は、今大きな問題として取り上げられ、私たちも早急な取り組みが求められています。中でも、地球温暖化をめぐる問題は深刻なものとなっています。

最近多く発生している異常気象など、その影響は直接私たちの生活にも及ん

できています。砂漠化の進行や南極の氷の減少など直接的な影響のほかに、生物種の減少などにも関係していると言われ、今後もより一層深刻になると考えられます。

既に、国際会議も多く開かれ、今年の2月16日には、地球温暖化抑制のための、京都議定書も発効されるなど、世界規模の取り組みも始まったところです。

また、廃棄物処理・リサイクル問題も重要な我が国の課題です。生活環境を良くするとともに、地球環境への負荷を減らしていくには、まず廃棄物の発生量を減らしていくことが重要だと思います。

しかし、廃棄物の減量化やリサイクルの必要性が叫ばれているにもかかわらず、十分に進んでいるとは言えません。大量消費による環境への負荷を、廃棄物処理という形で終わらせることには、既に限界がきています。

私は、これからは、製品の開発や製造から流通、消費、排出、回収や再利用などの各段階において、廃棄物の発生をおさえ、リサイクルを進めていく社会の流れを築くことが大切と考えます。

今こうした環境問題に対して、どう取り組んでいくか重要となってきます。

そこで、山口県では、環境保全に向けた政策や対策として、どのようなことに取り組んでいるのでしょうか。

例えば、二酸化炭素削減のための対策やリサイクル事業など、県全体でどんな取り組みや対策をしているのか、具体的に教えていただけないでしょうか。

どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

議長（成松園巴さん）松原環境生活部長さん。

〔松原環境生活部長 登壇〕

環境生活部長（松原清さん）彦島中学校、嶋村議員の環境問題についての御質問にお答えいたします。

県では、健全で恵み豊かな環境の保全と創造、こういうものを目指しまして、さまざまな取り組みを進めています。

御質問にもございます、地球温暖化対策は、重要な課題であることから、「地球となかよし県民運動」を平成10年度から開始をし、家庭や職場での省エネルギーなど、二酸化炭素削減に向けた自主的な実践活動を促進をしてきました。

また、同時に、太陽光発電などの導入、工場から発生する水素の燃料電池への利用など、新エネルギー対策も進めています。

しかしながら、本県全体の二酸化炭素排出量は、平成13年度におきまして、基準となる平成2年度との比較で13.3%増加しています。

このため、京都議定書の発効を受けて、来年度、地球温暖化防止に向けた県の具体的な計画をつくり、県民の皆さんと一緒に、新たな対策に取り組んでいくことにしています。

次に、廃棄物問題への取り組みについてでございますが、県では、市町村のごみ焼却場から出る灰は、埋め立てるのをやめましてセメントの原料に、また

商店街などの食堂から出る生ごみは、農家から出てまいります牛ふんと混合し堆肥に、それぞれ有効利用するなどの取り組みを行っておりまして、こうした取り組みなどにより、ごみのリサイクル率は、平成14年度、20.5%と全国でもトップクラスとなっているところです。

さらに、廃棄物の排出企業やリサイクル技術の開発企業、リサイクル企業、運搬企業などが一緒になって、新たなリサイクル事業を生み出すための検討を進めるなど、循環型の地域社会づくりに向けて、廃棄物の減量化やリサイクルの一層の促進に取り組んでいるところです。（拍手）

議長（成松園巴さん）越ヶ浜中学校の杉本雅彦さん。

〔杉本雅彦さん 登壇〕（拍手）

杉本雅彦さん 僕は小中学生の子どもの安全対策について提言します。理由は最近のニュースなどを見てもわかるように、日本においても子どもを巻き込んだ凶悪な事件が多発しているからです。

例えば、昨年の奈良小学校女児誘拐殺人事件や先日の大阪教師殺傷事件など、多くの人たちを悲しませた二つの事件は、皆さんの記憶に鮮明に残っていることでしょう。これらの事件で、全国の小中学生の子どもを持つ親は、安全についてとても心配になっていることと思います。そして、この山口県も例外ではなくなっています。

学校の朝の会や帰りの会等で不審者情報をよく耳にします。僕の中学校では、1月に不審者対応の避難訓練を実施しました。訓練というものの「これが本当だったら」と思うと、とても怖くなってきました。

そこで、山口県の小中学生の子どもたちを守るために、実施すると良いと思うことを提案したいと思います。

一つ目は、地域の方々に協力してもらい、登下校の子どもたちを守るため、当番制で校区内の各ポイントごとに巡視員を設置するという取り組みです。

これは、不審者対策にも効果があると思います。それと同時に地域の人との交流になり、とても有効だと思います。例の奈良の事件でも、近所の人たちがいつも少女に声をかけていたならば、そして、異変にすぐ気づいていれば、最悪の事態にはならなかったと思います。

「何もそこまでしなくても…」と思う人がいるかもしれませんが、今の世の中ここまでしないと、真の子どもの安全確保というものは難しいだろうと思います。

二つ目の提案は、学校に不審者が進入してきたときの対策です。

今は火災や地震に対する避難訓練というのは、どの学校も1年に1回の割合でやっていると思います。しかし、学校に進入してきた不審者を想定した避難訓練をやっている学校は、まだまだ少ないと思います。

先ほども話したように、我が越ヶ浜中学校も先日不審者に対する避難訓練を行いました。放送に静かに耳を傾けたり、教室の入り口に机でバリケードを築いて、いすを持って身構えたりと、緊張感を持って行うことができました。

このような訓練を地域や警察署の方の協力をいただいで実施すれば、もし、

実際に不審者が進入してきたとしても冷静に対処することができるし、常に危機意識を持つことができるのではないかと思います。

僕は、以上の二つのことをぜひ実施してみるといいと思います。

最後に、現在、山口県では子どもの安全を守るためにどのようなことをされているのか、そして今後どのような計画を考えられておられるのか、教えていただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

議長（成松園巴さん）藤井教育長さん。

〔藤井教育長 登壇〕

教育長（藤井俊彦さん）越ヶ浜中学校の杉本議員の子どもの安全対策に関する御質問のうち、教育委員会に関係する3点についてお答えいたします。

最近、子どもや先生を巻き込んだ凶悪な事件が全国各地で発生しておりますが、登下校時も含めて児童生徒の安全を守るためには、学校だけでなく、家族の皆さんや地域の方々にも協力をいただいて、子どもたちをより多くの目で見守っていくことが非常に大切であります。

こうしたことから、杉本議員の一つ目の提案であります「巡視員の設置」は大変有効な取り組みです。

県教育委員会でも、自治会やPTAの皆さんに協力をお願いして、既に山口県内の約3分の1の小中学校で、登下校時や昼間の巡回パトロールなどのボランティア活動が始まっております。

来年度は、こうした活動をもっと広げていくために、県内のすべての小中学校に「学校安全ボランティア」を組織していくことにしております。

次に、二つ目の提案であります「不審者の侵入を想定した防犯訓練」についてです。

防犯訓練は、犯罪による被害を未然に防止したり、最小限にとどめる重要な取り組みです。

このため、最近では、県内のほとんどの学校が防犯訓練に取り組み始めておりまして、これからも、地域や警察と協力して継続的に防犯訓練を実施していくことにしております。

次に、子どもの安全を守るために現在行っていることと、今後の計画についてお答えいたします。

県教育委員会では、防犯対策として取り組んでほしい内容を「40の項目」にまとめて、各学校では、これに沿って安全体制の整備に取り組んでおります。

また、県警察本部などと協力して、凶悪事件が発生した場合に、危険が及びそうな地域の学校へ即座に情報を伝える「緊急通報体制」なども整えております。

児童生徒の安全を確保するためには、皆さん自身の防犯に対する認識も重要でありますので、これからも、一人一人の意識を高めながら、学校と家庭や地域の皆さんが一体となった「地域ぐるみの学校安全体制」をさらに充実させ、安心して過ごせる安全な学校づくりに取り組んでいきます。

以上です。（拍手）

議長（成松園巴さん）篠宮警察本部長さん。

〔篠宮警察本部長 登壇〕

警察本部長（篠宮隆さん）子どもの安全対策について、県警察からお答えをいたします。

現在、県内各地において、子どもが事件、事故に巻き込まれないように、保護者や防犯ボランティアの方々などが、主として登下校時、通学路周辺で見守り活動を行っております。

警察といたしましては、御提案のように、見守り活動がさらに県内に広まり、そして定着するよう、巡視の方法や犯罪情報を地域の方々に提供するなどして、この見守り活動の支援をしてまいります。

また、学校における避難訓練につきましても、警察は、<sup>さつ</sup>刺またの使用方法、避難方法などについて、実践的な指導を実施しておりますが、万が一の場合には、訓練をやっておりますと冷静に対処することができると考えており、今後もっと多くの学校で実施できるようにいたします。

次に、子どもの安全を守るため、現在行っていることではありますが、地域の方々の巡視や学校での避難訓練への協力のほか、地域の方々や学校関係者と子どもを犯罪や事故から守るための方策について協議をしているほか、警察官による学校周辺のパトロール、児童生徒への防犯ブザーの貸し出しなども行っております。

今後も、地域の方々や学校、自治体などと協力して、子どもが犯罪被害に遭いそうなときに、助けを求める場所である「子ども110番の家」を増やしたり、暗がりを解消するため、道路や公園などに防犯灯を多く設置するよう関係者への働きかけなど、子どもの安全を守る対策を進めてまいりたいと考えております。

貴重な御提案をいただきありがとうございました。（拍手）

議長（成松園巴さん）高水高等学校附属中学校の大矢格さん。

〔大矢格さん 登壇〕（拍手）

大矢格さん 山口県の教育について質問したいと思っております。

何年か前、大学入試センター試験県別平均点が全国で下位、国体成績も下位という悲しい思いをしたことがあります。

しかし、日本全体に視点を変えても、昨年末のOECD経済協力開発機構が40カ国・地域の15歳を対象とした生徒の学習到達度調査で、4分野のうち「総合読解力」が前回の8位から14位まで順位を下げています。ゆとり教育だけが原因ではないと思いますが、何らかの対策が必要だと思います。

もちろん、国家としての基本的姿勢は、文部科学省が示してくれると思いますが、平成大合併で、地方の力がますます問われてくる今、山口県では、子どもの学力低下に対して、どのような対策を計画されているのでしょうか。

また、合併により地方自治の充実・発展が期待されてはいますが、そのためには、その地方に合う、個性ある町づくりが必要で、公立学校においても、特徴

が今以上に求められてくると思います。

その結果として、親や子どもが学区に関係なく、学びたい学校を選択する日が来ると思いますが、学区制廃止については、どうなっていますか。

最後に、高校入試についてお尋ねします。

高校受験のために、多くの生徒が夜遅くまで塾に通う姿を見かけます。塾に通う理由はそれぞれでしょうが、私は、受験テクニックを身につけても、それは一時的なもので、真の学力にはならないと思うのです。

最初に述べたように、暗記だけの知識は、世界の学力感からずれてきています。いち早く都心の私立学校では、資料を見て考える、読み取り重視の出題が増えてきています。隣の広島の私立校でも同じような傾向が見られます。もちろん、知識は暗記しなければならない部分もありますが、読解力が重視される今、高校入試や大学入試も変わってくるでしょう。

山口県では、読解力と入試をどのように考えていますか。また私たちは何をしたらいいのでしょうか。

質問は以上3点です。（拍手）

議長（成松園巴さん）藤井教育長さん。

〔藤井教育長 登壇〕

教育長（藤井俊彦さん）高水高等学校附属中学校の大矢議員の教育問題についての3点の御質問にお答えいたします。

最初に、学力向上対策についてです。

皆さんが、自分の夢をはぐくみ、それを実現していくためには、豊かな人間性、また健康や体力とともに、学力はとても大切なものであると思います。

学力向上対策を進めるには、まず、児童生徒の学力の実態を把握する必要がありますので、来年度、すべての公立の小中学校を対象として学力調査を実施することとしております。

また、学力向上のためには、一人一人の児童生徒が感心を広めたり、あるいは意欲を高めて取り組むことが重要であります。総合的な学習の時間はそういうことをねらいとした学習であります。しかしながら、何よりもいろいろな科目での授業と、そして家庭での学習が重要であると思っております。

児童生徒の皆さんや保護者の方の意見を聞きながら、よりわかりやすい授業となるよう工夫・改善して、一層その授業がわかりやすいものとなるように取り組みますとともに、一人一人が家庭学習に取り組めるように支援することとしております。

次に、学区制の廃止についてです。

通学区域については、最近、交通網の整備が進み、児童生徒の皆さんや保護者の方の希望も多様になっていることから、学校を自由に選択することを望む声も聞かれるようになってきました。

このような中で、県内のいくつかの市町村では、通学上の安全など、個々の実状に応じて、学校が選択できる弾力的な取り組みも行われております。

また、県立高等学校の普通科については、現在7つの通学区域がありまして、

学区外からの入学枠を設けて対応しておりますけれども、将来的には、県下全域ということも視野に入れて検討していきたいと思っております。

次に、読解力と入試についてです。

山口県の高校の入試では、基礎的・基本的な内容について出題するとともに、思考力、判断力、表現力等も見るようにしております。

このため、読解力については、例えば理科や社会においても、説明文や資料を読みとる力や考察する力、表現する力などを見るように配慮しております。

皆さんも、来年は入試であるかもわかりませんが、そういうふうな観点から、読解力等も非常に重要でありますので、普段から読書に意欲的に取り組みながら、さまざまな文章を読んで、自分の意見をまとめたり、発表したりすることが大切であると考えております。

以上です。（拍手）

議長（成松園巴さん）以上で質問を終わります。

---

### 日程第三、決議案

議長（成松園巴さん）日程第三、大殿中学校の中嶋美絵さん、ほか一人から提出のみんなでつくろう「住み良さ日本一の元気県」についての決議案を議題とします。

決議案は配ってあるとおりです。

---

### 提出者の説明

議長（成松園巴さん）決議案の提出者から、内容について説明してもらいます。中嶋美絵さん。

〔中嶋美絵さん 登壇〕（拍手）

中嶋美絵さん みんなでつくろう「住み良さ日本一の元気県」。

山口県は「住み良さ日本一の元気県」を目指しています。

この「住み良さ」の条件としては、安心して暮らせる、環境がよい、交通が便利であるなどが考えられますが、もっと大切なことは、「人や自然・歴史・文化との心温まるふれあいがある」ことだと思います。

では、私たち中学生ができることは一体どんなことでしょうか。

私は、次の三つのことを考えています。

一つ目は、あいさつです。

私たちの地域では、朝、たくさんの方が笑顔で「おはようございます」というあいさつを交わしており、すがすがしい気持ちで一日を迎えることができます。笑顔でのあいさつは、地域の方に元気や明るさを伝えることができます。明るいあいさつのあふれる町づくりは、人々の交流を活発にし、精神的な住み良さにつながってきます。

二つ目は、地域の方との積極的なふれあいです。

老人ホームへの訪問、奉仕活動への参加、職場体験学習など、私たちは地域のさまざまな方とのかかわりの中で貴重な体験をしています。

このようなかかわりをもっと拡大するとともに、中学校にも地域の方が来ていただける機会を持つなど、地域と積極的に交流し、心のふれあいを図っていくことが住み良さにつながってきます。

三つ目は、山口県の自然や、歴史、文化などとふれあい、大切にすることです。

山口県には、秋吉台など、豊かな自然や、明治維新を実現させた原動力になるものなどの貴重な歴史があり、萩焼などの山口県独自の文化を生み出してきました。

私たちは、この、自然・歴史・文化を誇りに思うとともに、大切にしなければなりません。そのためには、山口県の自然・歴史・文化を肌で感じるができる活動に積極的に取り組むことが大切です。そうすることで、山口県がより好きになり、住み良さへの意識も高まっていくのです。

私は、私たち中学生がこの3点に積極的に取り組むことが、「住み良さ日本一の元気県」をつくることにつながると考え、決議案として宣言します。（拍手）

---

## 討 論

議長（成松園巴さん）これから討論に入ります。

討論の申し出がありますので、発言を許します。

大殿中学校の片岡建人さん。

〔片岡建人さん 登壇〕（拍手）

片岡建人さん 僕はこの提案に賛成です。

まず一つ目のあいさつについてですが、僕たちの学校では、先生や生徒と出会うたびにあいさつを交わしています。また、僕たちが安全に登校できるように、毎朝立哨してくださっている地域の方々ともあいさつを交わしています。しかし、まだ完璧とは言えません。だから、あいさつをされたからかえすのではなく、みんなが自分から進んであいさつができるようにしていきたいです。

次に、二つ目の地域の方とのふれあいについてですが、僕の学校では、地域の行事に積極的に参加しています。例えばマラソン大会や、地域の自然とふれあう山遊び、川遊びなどに、部活動での参加をしています。僕たちが参加することによって、毎年参加する人数も増え、とても活気づいてきたと地域の方が話しておられました。その他にも、職場体験学習や幼稚園での保育実習などでは、実際に地域とのふれあいを深めています。

次に、三つ目の山口県の自然や歴史、文化などとのふれあい、そして大切にすることについてですが、僕たちの学校では1年生の時、総合学習で大殿ウォッチングと題して地域の自然や、瑠璃光寺などの歴史的な場所を調べました。そして、実際に見て回ることで地域の良さを再発見しようという学習に取り組みました。そして、調べた結果、今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。また、僕たちの身近なところにも、こんなにすばらしいところがあるのだということに改めて気づきました。そして、自分たちの地域

の歴史や自然について、一人一人の意識が高まったように感じました。

最後に、僕たち中学生の力も、山口県を良くしていく上で、とても大きな力になると思います。だから、この三つの提案を僕たちが積極的に取り組んでいくことで、「住み良さ日本一の元気県」をつくっていきたいです。（拍手）

議長（成松園巴さん）以上で討論を終わります。

---

#### 表 決

議長（成松園巴さん）これより決議案を採決します。

決議案は、提出された案のとおり決定することに賛成の人の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（成松園巴さん）起立全員です。

よって、みんなでつくろう「住み良さ日本一の元気県」についての決議案は、提出されたとおり可決されました。（拍手）

---

議長（成松園巴さん）以上で、子ども県議会に提出された問題についての審議は、全部終わりました。

最後に、今回、この子ども県議会を開くことについて御協力をいただきました皆さんに、一同を代表してお礼を申し上げます。ありがとうございました。

これで、県内の中学生が集まって行われた子ども県議会を閉会します。御協力ありがとうございました。（拍手）

## 閉 会 行 事

司会 それでは、子ども県議会の閉会にあたりまして、長谷川県議会副議長がごあいさつを申し上げます。

〔長谷川忠男県議会副議長 登壇〕（拍手）

長谷川忠男県議会副議長 子ども県議会。すばらしいの一語でございました。

私は、やっぱり、初心に立ち返る必要が、私たち山口県議会の53名の者にもあるなあということ、痛感をさせていただきました。

きょうは、山口県内遠近各地から、子ども県議会の議員として御出席をいただき、議席におつきをいただきました。

私も、十数年前に県議会に議席を賜りましたとき、初めて県議会にまいりましたときの日を、今きのうのこのように思い返させていただいているのですが、1つは、胸につけておりますこのバッチをいただきましたときに、大変重い責任を感じました。

いま一つは、皆様方が今着席をしておられますが、私たちも同じように自分たちの右手前に墨痕鮮やかにみずからの名が記された名札が立っております。これを見ましたときに、本当に責任の重さというものを痛感をいたしましたわけがあります。

今、私たち山口県議会は、53名の者が、まことに微力ではありますがけれども、県勢発展のために、島田県議会議長さんを中心として、一生懸命努力をさせていただきます。

皆様方も、きょうは終始一貫すばらしい形で御審議をいただき、質疑応答に没頭していただきました。議長さんの議事進行もすばらしいものでありました。

これからは、きょうのこの貴重な御体験と御経験を踏まえて、人間として、人間性豊かな人格の形成と、皆様方は山口県の財産でありますから、この人的な財産をより大きく育てていただきたいと思います。

最後に、一つだけお願いを申し上げておきますが、きょう御自宅にお帰りになられましたら、辞書をひいていただきたいと思います。その探します言葉は、「四恩」と書かれております。日本古来の教えの一つであります。四つの恩と書かれております。一つは国家に対する恩がありはしないか。二つ目は御先祖に対する恩がありはしないか。三つ目はお父さんお母さん、すなわち両親あったらばの皆様方あります。親に対する恩がありはしないか。四つ目は衆生、すなわちみずからをとりまく多くの方々に御恩がありはしないか。

すばらしい人生をお送りをいただきますことを、皆様方の前途に幸多からんことを心から祈念をいたしまして、お礼のごあいさつといたします。

ありがとうございました。（拍手）

司会 これをもちまして、山口県旧県会議事堂復原竣工記念子ども県議会を終了いたします。

皆様、御協力ありがとうございました。（拍手）

## 山口県についての意識調査1

子ども県議会資料

領域	足りないもの	数
商工業	人が集まる場所が欲しい	2
商工業	大きな都市があると良い	2
商工業	産業で有名なものがない	3
商工業	工業系の工場がたくさんできると良い	
商工業	若者が少ない	2
商工業	専門店がたくさんできると良い	2
商工業	大きいデパートが欲しい	2
商工業	情報網が発達していない	2
商工業	携帯のアンテナが少ない	
商工業	宇宙産業がない	
商工業	刺激がない	
商工業	商業の発達	
商工業	観光地が少ない	2
商工業	経済面で弱い	2
保健・医療・福祉	命の大切さ	
保健・医療・福祉	大きな病院が欲しい	
保健・医療・福祉	少子高齢化が進んでいる	
保健・医療・福祉	マツモトキヨシが欲しい	
文化・スポーツ	テーマパーク(ディズニーランドなど)	2
文化・スポーツ	球団ができると良い	2
文化・スポーツ	芸能人がいない	
文化・スポーツ	有名な人がいない	2
道路・河川の整備	交通(空港など)が不便	4
教育関係	教育の発展	
その他	市以外の町村の発展	2
その他	さみしい	
その他	山口県のアピール	3
その他	活気がない	3
その他	インパクトがない	2
その他	人口	3
	無回答	1

誇れるもの	領域	数
焼き物(萩焼など)	商工業	7
すずり(赤間硯)	商工業	
錦帯橋	商工業	3
おみくじの生産	商工業	
ふく(ふぐ)、あんこう	農林水産業	10
漁業が盛ん	農林水産業	2
はなっこりー	農林水産業	
りんご	農林水産業	
自然が豊かなこと	環境の保全	5
緑が多い	環境の保全	3
化石	文化・スポーツ	
萩の史跡	文化・スポーツ	
高速道路網	道路・河川の整備	
介護施設が充実	保健・医療・福祉	
ガードレールの色	交通安全対策	
とても平和	その他	
悪い人が少ない	その他	
事件が少ない	その他	
親切な人が多い	その他	
田舎	その他	
無回答		1

## みんなでつくろう「住み良さ日本一の元気県」についての決議案

上記の決議案を下記のとおり提出します。

平成17年3月28日

提 出 者

子ども県議会議員 中 嶋 美 絵

賛 成 者

子ども県議会議員 片 岡 建 人

## みんなでつくろう「住み良さ日本一の元気県」についての決議

山口県は「住み良さ日本一の元気県」を目指しています。

この「住み良さ」の条件としては、安心して暮らせる、環境がよい、交通が便利であるなどが考えられますが、もっと大切なことは、「人や自然・歴史・文化との心温まるふれあいがある」ことだと思います。

では、私たち中学生ができることは一体どんなことでしょうか。

子ども県議会は、私たち中学生が下記の三点に積極的に取り組むことが、「住み良さ日本一の元気県」をつくることにつながると考えます。

### 記

- 1 笑顔でのあいさつを行うこと。
- 2 地域の方との積極的なふれあいを図っていくこと。
- 3 山口県の自然や、歴史、文化などとふれあい、大切にすること。

以上、決議します。

平成17年3月28日

子ども県議会